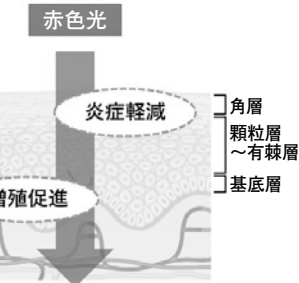


赤色光に表皮細胞の増殖促進 効果・炎症軽減効果を発見

資生堂は、赤色光に表皮細胞の増殖を促進効果と皮膚の炎症軽減を促す効果があることを発見した。

3次元表皮モデルや皮膚組織の培養モデルを用いて、赤色光が表皮基底層の細胞増殖を高めることを確認し、赤色光が表皮恒常性の維持に関与していることが示唆された。加えて、ヒト試験により、赤色光が角層バリア破壊後の皮膚の炎症を軽減させる効果を示すことを確認した。研究成果の一部は日本美容皮膚科学会(2022年8月6〜7日)で発表した。



赤色光が表皮に与える効果(イメージ図)

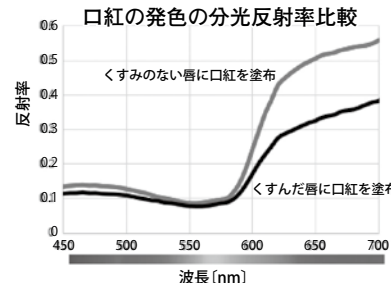
性細胞数が有意に高まることを確認した。これらにより、赤色光が表皮基底層の細胞増殖を促し表皮恒常性の維持に関与していることが示唆された。

花王 くすんだ唇でも鮮やかに美しく発色する口紅を開発

花王は、口紅を塗った時に、期待した発色と違つと感じる人が少なくないことから、「もとの唇の色」に着目し、唇にくすみ悩みを持っている人でも鮮やかな口紅の発色が得られる技術を開発した。

同社では、唇の色はさまざまな色に着色し、日本人の見た目の唇の色が「赤く鮮やか」「赤みがない」「彩度が低い」「暗い」という特徴を有する4つのグループに分けられることをこれまでの研究で把握しており、さらに研究を深掘りして、口紅の塗膜は半透明なので、唇の色の影響を受けてしまうことが

挑戦した。今回開発した赤色光透過率を高めたサンスクリーン基剤は、同社の赤色光透過率が低いサンスクリーン基剤と比較して、透過度を約1.2倍高めることができた。



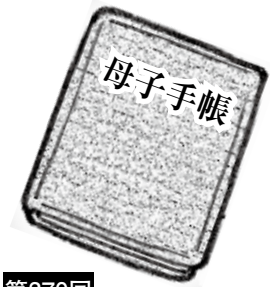
ま維持することができないため、赤色顔料を増やしても、くすんだ唇では「くすんだ赤」の発色に見える。また、シャボン玉がさまざまな色に見えのと同様の現象(光の干渉)により、赤色に発色する赤干渉パール顔料もよく知られた赤色材で、その散乱係数は、赤色領域で高いまま維持するものの、緑色領域付近から増大していく。つまり赤色領域の散乱のみを増大することはできず、白っぽい赤の発色に見える。この色材を配合した口紅を塗布すると、くすんだ唇でも鮮やかな発色が確認できた。

ら、特に彩度と明度の低いくすんだ唇は、口紅の発色もくすんだ仕上がりになることがわかった。研究では、くすみのない唇とくすんだ唇に口紅を塗布した際の仕上がりの差を光学的に解析し、くすんだ唇では、特に赤色領域の発色が不足していることを見出した。この結果を受けて同社は、くすんだ唇でも赤の発色を向上させる技術を検討した。その結果、赤色領域の散乱を高め、赤色領域の発色を向上させることができた。また、BC/LC構造体の使用感特徴を明らかにした。研究成果については第73回コロイドおよび界面化学討論会にて発表を行った。

入荷3カ月待ちが続くP2Cブランド

P2Cブランド「Yunth」が、バラエティショップやビューティ特化型下ラッグストアなどリアル店舗に販路を拡大してユーザ層を広げている。「Yunth」はInstagramで14・3万代表を務める千葉氏

母子手帳



第370回 「Yunth」 Yunth(ユンス)

は、読者モデルから美容家に転身した経歴をもつ。自身も肌に深い悩みを抱えた時期を過ごし、その経験をもとにインスタライブで美容を話題に配信を行うと、本音で語る姿にフォロワーが急増。フォロワーの肌悩みに対する相談やアドバイスを行う中で、信頼性が高まり、「#ちはゆか買い」というハッシュタグが生まれるほどの影響力を持つようになった。



した。「私自身の肌に悩んだ経験がもたらしている」と千葉氏は話す。シリーズ第一弾の「生ビタミンC」を配合した美白美容液(導入美容液)と美白シートマスクは「普段のスキンケアアイテムを変えることなく、プラスして使っていたら



売れ筋の「生ビタミンC美白美容液」は常にフレッシュな状態に保つよう1回分ずつ小分けにしていたり、化粧水は使う前に容器を振ったりと、使うのにひと手間かかるが、「そのひと手間を自分と向き合う時間を持つきっかけにしてみたい」と話している。

国内の供給が安定したら、中国・海外にも広げていく計画だ。(菅)

新規クレンジング製剤の使用感の数値化に成功

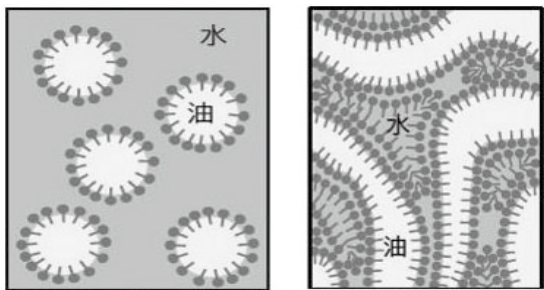
アルビオン

「大会にて新規クレンジング製剤として発表した「バイコンティニウス(BC)ノ液晶(LC)構造体」について研究を重ね、このほど、使用感の数値化に成功し、一般的なクレンジングクリームとは異なる転相過程を解明した。従来の方法(定常流動測定)では測定が困難だったことから、新たに実使用を模した測定方法(インターバル測定)を開発し、BC/LC構造体の使用感特徴を明らかにした。研究成果については第73回コロイドおよび界面化学討論会にて発表を行った。

BC/LC構造体は、BC相も数値化や比較が難しい。さらに、高いクレンジング力や洗い流し性に優れているだけでなく、BC/LC構造体について、レオメータの従来測定方法(定常流動測定)を行なったところ、粘度低下せずに一定のスコアを示した。これは、一般的なクレンジングクリームは力を加えるだけで減粘するのに対し、BC

造体は、BC相を応用している「転相」に着目し、レオメータ(粘弾性を評価する測定器)にて特徴的な転相感の解析を試みた。BC/LC構造体について、レオメータの従来測定方法(定常流動測定)を行なったところ、粘度低下せずに一定のスコアを示した。これは、一般的なクレンジングクリームは力を加えるだけで減粘するのに対し、BC

測定を実施し、BC/LC構造体の粘度低下をどうにかすることができた。また、BC/LC構造体の成分変化が製品の使い心地に与える影響を可視化することで、使用感のコントロールも可能になるとわかった。今回、新たに開発したインターバル測定と電気化学解析の併用により、BC/LC構造体には、力だけでなく空気接触が重要であるという特徴的な転相過程を明らかにすることができた。今後は新たに開発した測定方法だけでなく、従来の



O/W構造(一般的なクレンジングクリームの構造・左)とBC/LC構造体(右)のイメージ図